

平成 30 年度

# 学 校 評 価

< 記入上の留意点 >

評価 は教職員、評価 は校園長、評価 ・評価 は学校関係者評価委員の評価を記入する。

評価 は小数第一位まで記入する。評価 は4段階を基本とするが、0.5刻みまでを許容とする。  
評価 はA B C Dで記入する。

学校の実態に応じて評価内容を追加して設定することができる。

評価、評価 の基準

4	十分達成できた
3	達成できた
2	取り組んでいるが、成果は十分でない
1	取組が不十分である

評価 の基準

4	よく取り組んでおり、成果が大きい
3	熱心に取り組んでおり、今後が期待できる
2	取り組んでいるが、成果は十分でない
1	取組が不十分である

評価 の基準

A	優れている
B	適切である
C	おおむね適切である
D	要改善

尼 崎 市 立

小 田 北 中

学 校

# 平成30年度 学校評価

[各校の重点取組について]

本校の教育目標は、『一人ひとりを大切に生きぬく力を育む』と設定している。

具体的な取り組みは、(1)自分と他人を大切にす豊かな心を育てる。(2)共に学び、高め合い、確かな学力を身につけさせる。

(3)良い生活習慣を身につけさせ、心身共に健康な生徒を育てる。(4)家庭・地域から信頼を得て『共育』を行う。

## 学校教育に関する重点取組

1 教育・学習内容を充実させ、確かな学力の育成と健やかな体づくりに取り組む	評価 (教職員)	評価 (校園長)
(1) 授業改善の取組を促進するとともに、家庭との連携により、学力向上を推進する (2) 特別支援教育の取組を充実させ、自立や社会参加に向けた主体性を育成する (3) 食育を通して生活改善の取組を促進し、望ましい生活習慣を育成する (4) 体育・スポーツ活動の取組を促進し、体力・運動能力の向上を図る	3.2	3.5

取組とその成果	課題と改善策
・校内で2回公開・研究授業を実施し、講師も招聘し授業改善に努めた。多くの教師が授業工夫をするようになった。 ・市の学力向上施策だけに頼るのではなく、各クラス各教科の補習学習を実施した。 ・家庭での学習時間増加に向けて、毎週週末課題を与え点検等の指導強化を図った。 ・数、英で少人数、TT授業により、生徒一人ひとりを大切にす授業実践を心がけた。様々な取組の結果学力が思った以上に向上した。 ・特別支援委員会やケース会議で情報交換等を行い、職員会議等で全教職員の共通理解を図っているため生徒理解が進み、効率的に支援に当たれるようになった。 ・小中で道徳や教科授業の相互参観、出前授業や夏季合同職員研修、小6児童の文化発表会の参観、部活動体験を行い中学校理解が進んだ。 ・食育全体計画に従い、進める事ができ、2年生対象の食育授業の充実を図れた。 ・教科体育の充実と体育的行事や部活への全教員の取組等しっかりと協力体制が取れた。 ・スポーツテストの結果を活用することで、生徒の向上意識を高めた。	・教科指導におけるレシビを作成し、各指導者なりに対応してきたが、今後はそれぞれの指導の中でより良くなっていくため、修正をかけていきたい。 ・1時間の授業の中で多くの生徒をフォローできるように工夫をしていく。 ・授業で対応しきれないところは補習等で埋めていくことがまだまだ必要である。 ・数、英の小人数、TTでの授業をより工夫して一人ひとりのやる気呼び起こすようにしていく。 ・支援が必要な生徒が多くあり、より効率的に多くの生徒の支援ができるように情報共有を今まで以上に個々に応じた対応を実践していく。 ・小中連携をより密にして進めていく。小と小の連携をもっと図ってもらう働きかける。 ・食育の学習はこのまま続けて進めていく。 ・教科体育、体育的行事、部活動を関連づけながら全教員で今後も取り組む。

2 心の教育を充実させ、自己実現の意識の高揚を図る	評価 (教職員)	評価 (校園長)
(1) 基本的な生活習慣確立の取組を促進し、心身共に健全な育成を図る (2) 道徳性育成の取組を促進し、思いやりに満ちた人間関係及び社会とのかかわりづくりに努める (3) 各校のいじめ防止基本方針に基づき、誰もが過ごしやすい学校の環境づくりに努める (4) キャリア教育の取組を促進し、社会的自立に必要な能力を育成する	3.2	3.5

取組とその成果	課題と改善策
・年間35回の計画に従い道徳授業の実施と普段の指導の中で心の教育を進めていく。10月、1月に道徳の公開授業を行った。 ・普段の生徒とのふれあいに加え、年2回の教育相談を計画的に行い問題行動等の未然防止に役立っている。 ・いじめアンケートを実施し、教育相談と合わせて生徒理解に努めている。 ・教員が生徒とのふれあう時間を増やし、早期対応を心がけている。 ・生徒指導委員会、不登校委員会等の会議の統合を行うことにより生徒と関わる時間を増やす。又、情報を電子化して共通理解を図る。 ・不登校担当・SC・訪問指導員・はつらつ学級との連携をいっそう深める。不登校気味の生徒保護者の管理職面談を行い改善に努めている。 ・キャリア教育の年間計画を作成するとともに「進路ノート」の活用などを計画的に行う。	・今後も年間計画に従い道徳授業を進めていき、指導力向上のための研修や授業公開を続けていく。 ・教育相談アンケートといじめアンケートを実施して、定期的な教育相談に加えいつでも相談できる体制を作る。 ・生徒指導委員会と不登校委員会に生徒支援の立場の教員も入られて情報共有しながら生徒の成長を支援していく。 ・関係機関や教員以外の力(SC/SSW/福祉等々)も借りながら生徒の成長を支援していく。 ・卒業後の進路について早くから(1・2年の時から)考えられるように計画的に進めていく。

<b>3 家庭・地域・学校の連携を深め、活力に満ちた学校園づくりに取り組む</b> (1) 教職員の資質向上の取組を促進し、業務改善を進めながら学校の組織力及び教育水準の向上を図る (2) 地域の教育力を活用した取組を促進し、地域とともにある学校園づくりを推進する	評価 (教職員)	評価 (校園長)
	3.3	3.5
取組とその成果	課題と改善策	
<ul style="list-style-type: none"> <li>研究推進委での研修等計画を立案し、目的を示すことで教員の意識が高まった。</li> <li>パソコン内でのデータ管理をして職員で共有することで業務改善を進めている。</li> <li>教育施策に関する情報等を職員会議時等で職員に示すことで改革意識を高める事が出来てきた。</li> <li>若手教員の校内研修計画を実施することで若手の意識が高まり、ミドルリーダーの成長にも繋がった。</li> <li>個別面談を年間2回以上行うことで意識改革を少しずつではあるが、図れてきている。</li> <li>教育活動の公開や学級、学年、学校の発行、ホームページ更新、PTAメール配信を更に活発にしたのでより保護者・地域との連携が出来た。</li> <li>地域行事等に参加し、地域とともに小田北中生を育てるスタンスで対応しているので、連携や協力体制は取れてきている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>今後も研究推進委員会を中心にして、指導力向上を目指して学校の教育水準を上げていく。</li> <li>PC内でのデータ管理を徹底し、業務改善に努めていく。</li> <li>PC内に教育情報を示し、向上意欲を高めていく。</li> <li>今後も個人面談を通じて管理職と教職員の力を強めてチーム力をあげていく。</li> <li>ホームページやたよりを通じて学校での教育活動等情報発信をすることで学校に対する協力者(地域や保護者)を増やしていく。</li> <li>地域行事へも積極的に参加し、小田北中の生徒を地域とともに教育する”共育”が浸透するようにしていく。</li> </ul>	

<b>4 安全な教育環境を確保し、防災意識の高揚を図る</b> (1) 安全教育の取組を促進し、登下校及び学校園内の安全確保を図る (2) 防災教育の取組を促進し、危機管理能力の向上を図る	評価 (教職員)	評価 (校園長)
	3.1	3
取組とその成果	課題と改善策	
<ul style="list-style-type: none"> <li>登校、下校指導をすることで、生徒の登校、下校時の安全が確保されている。また、地域保護者と連携することで生徒の意識を高めていった。</li> <li>月末の安全点検実施により、危険箇所の把握を確実にを行うため事故はほとんど無い。</li> <li>校舎内を整理整頓する意識させることで、学校施設を大切に使用する意識が高まった。</li> <li>朝礼や集会、学活での安全指導を行うので生徒が理解し易い。</li> <li>年2回の防災訓練実施の際、事前事後指導を充実することや関係機関との連携を深める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>登校、下校指導は今後も続けていき、教員の力と地域の力で生徒の安全確保を進めていく。</li> <li>施設の老朽化が激しい中であるが、毎月の安全点検を今後も続けて生徒たちが使っていく施設の安全を図っていく。</li> <li>年間2回の防災訓練で防災意識の高揚を続けていく。</li> </ul>	

<b>教育目標</b> (1) 教育目標の達成に向けた充実した教育活動の展開 (2) 教育目標の具現化と指導の充実	評価 (教職員)	評価 (校園長)
	3.3	3

取組とその成果	課題と改善策
<ul style="list-style-type: none"> <li>・朝礼等の機会や校内の掲示板を利用して、職員や生徒に具体的目標の意識付けを図る。</li> <li>・小田北ホームページ、学校、学年たよりや保護者会など機会あるごとに教育目標、目指す生徒像を示し、生徒保護者の理解が少しずつ広がってきた。</li> <li>・“一人ひとりを大切に、生き抜く力を育む”為に、生活習慣の徹底と学力向上を目指し全教員でしっかり取り組んだ。</li> <li>・目標達成するために、振り返りと改善が必要である。行事ごとの反省を基に次年度計画までの対応を進める意識をさせた。</li> <li>・学習に於いても基礎の積み重ねを大切に、テストごとの振りかえりを行いつまづきを解消させるよう指導していった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年度当初の職員鍵での確認をしっかり行う。</li> <li>・朝礼や掲示板を利用し具体目標を意識づけていく。</li> <li>・生活習慣の徹底(時を守り 場を清め 礼を正す)と学力向上(授業工夫)と心の教育の3本柱をしっかり取り組んでいく。</li> <li>・教員の指導力向上のため校内の研修会(全教員対象・若手中堅教員対象)の充実と校外での研修会での学びをしていく。</li> <li>・1時間の授業で対応しきれない生徒の補習を各教科で進めていく。</li> </ul>

<b>研究テーマ</b> (1) 研究テーマの達成に向けた充実した教育活動の展開 (2) 研究テーマの具現化と指導の充実	評価 (教職員)	評価 (校園長)
	3.2	3.5

取組とその成果	課題と改善策
<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究推進委員会を中心に、授業改善や学力向上の方策を検討し、教員全員が各授業に於いて工夫をするようになった。</li> <li>・“基礎学力を充実させ、互いに高め合う授業づくり”というテーマに沿って、分かりやすい授業や指導法等工夫した授業実践し、校内で公開授業を行い意識を高めるようにしている。</li> <li>・市内の学力上位入りを目指し、各教科で授業工夫や補習をする等学力向上に取り組んだ。</li> <li>・学力調査やアンケートの分析から課題を見つけるようになった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各教員の工夫を出し合い今のレシビ以上のものにする検討を行う。</li> <li>・基礎学力の定着には小中連携が不可欠であるので小学校との連携をこれまで以上に進めていく。</li> <li>・今後も公開授業や授業研究を進めて、教員の指導力向上に努める。</li> <li>・学力調査やアンケート等の分析をしっかり行い、より効率的な指導ができるよう個々に応じた指導を進めていく。</li> </ul>

	評価 (教職員)	評価 (校園長)

取組とその成果	課題と改善策

## 学校関係者評価

評価の基準

4:よく取り組んでおり、成果が大きい  
2:取り組んでいるが成果が十分でない

3:熱心に取り組んでおり、今後の期待できる  
1:取組が不十分である

学校関係者意見等	評価
<p>1 教育・学習内容を充実させ、確かな学力の育成と健やかな体づくりに取り組む</p> <p>日々の授業で時間を守り50分間を工夫しながら展開することで、わかる授業を心がけている。授業公開も行い、指導力向上に努めている。小学校段階が低学力で入学してくる生徒を中学入学後の短期間で良く向上させている。3年間の地道な取組の成果が現れ学力の向上が素晴らしい。日々の授業工夫と各教科等での放課後の補習、週末課題やチャレンジ問題への挑戦等良くやっているが、今後小学校の学力向上があれば、安定した学力がつくものと思える。体育にも力を注ぎ、授業はもちろん体育的行事への取組もしっかりしている。</p>	4
<p>2 心の教育を充実させ、自己実現の意識の高揚を図る</p> <p>講師を招いて講演会を実施したり、用事とふれあう機会を設けるなど、様々な取組を通じてこころの教育にも力を入れている。平常での道徳授業もしっかり取組、道徳授業の公開も行って指導力向上に努めている。不登校生徒の数が少なくなることを期待する。</p>	3.3
<p>3 家庭・地域・学校の連携を深め、活力に満ちた学校園づくりに取り組む</p> <p>学校ホームページや連絡メールで情報発信を数多くしている。今後も多くの情報をホームページやたより等で行ってほしい。地域の行事へも参加させるなど、家庭地域とも連携をしっかり行っている。</p>	4
<p>4 安全な教育環境を確保し、防災意識の高揚を図る</p> <p>古い学校で修繕していく箇所も多いが、安全点検をしっかり行い、できる限りのことはしている。施設整備についてはもっと市の協力が必要と思われる。防災訓練や1.17の取組を通じて防災意識を高める取組を行っている。</p>	3.7
<p>教育目標</p> <p>5つの具体目標を作成し、目指す学校像に向けて取り組んでいる。学校たよりやホームページで広報活動はしているが、もっと呼びかけてほしい。中学校卒業時に自律した生徒の育成に努めてほしい。</p>	3.7
<p>研究テーマ</p> <p>基礎学力定着に力を注ぎ、学力向上もしてきている。普段の授業工夫や公開授業をすることでテーマに沿って進められている。今後も互いの授業の参観を行い、事後研究をする機会がさらに増えることを望む。早い段階の基礎学力を付けるためにも小学校との学習連携をもっと取ることを望む。</p>	3.3
<p>小中・小小連携</p> <p>小中連携を中学校側から積極的に進めている。今後も連携を進め、9年間での教育を目指してほしい。2小学校の差が大きいように思う。小小の連携をもっと図るように働きかけていくことを望む。小学校段階での基礎基本が抜けているため、中学校での向上はこれ以上望めないように思う。</p>	3.7
<p>評価項目 (A:優れている B:適切である C:おおむね適切である D:要改善)</p>	評価
アンケート等、自己評価の根拠となる資料は適切か	A
自己評価の結果の内容は適切か	B
自己評価の結果を踏まえた今後の改善策は適切か	B

集計表

1 教育・学習内容を充実させ、確かな学力の育成と健やかな体づくりに取り組む	3.2
2 心の教育を充実させ、自己実現の意識の高揚を図る	3.2
3 家庭・地域・学校の連携を深め、活力に満ちた学校園づくりに取り組む	3.3
4 安全な教育環境を確保し、防災意識の高揚を図る	3.1
教育目標	3.3
研究テーマ	3.2
1 教育・学習内容を充実させ、確かな学力の育成と健やかな体づくりに取り組む	3.5
2 心の教育を充実させ、自己実現の意識の高揚を図る	3.5
3 家庭・地域・学校の連携を深め、活力に満ちた学校園づくりに取り組む	3.5
4 安全な教育環境を確保し、防災意識の高揚を図る	3
教育目標	3
研究テーマ	3.5
1 教育・学習内容を充実させ、確かな学力の育成と健やかな体づくりに取り組む	4
2 心の教育を充実させ、自己実現の意識の高揚を図る	3.3
3 家庭・地域・学校の連携を深め、活力に満ちた学校園づくりに取り組む	4
4 安全な教育環境を確保し、防災意識の高揚を図る	3.7
教育目標	3.7
研究テーマ	3.3
アンケート等、自己評価の根拠となる資料は適切か	A
自己評価の結果の内容は適切か	B
自己評価の結果を踏まえた今後の改善策は適切か	B